

# 解説 インターネットと日本のオリエンテーリング <第1回>

木村佳司

インターネットは一部のマニアや技術者が使う時代は過ぎて、すっかり生活に溶け込んできています。もちろん人によりその度合いは大きく違うと思います。しかし、インターネットが日本のオリエンテーリング情報網に与えた影響は大きいものがあります。今回は日本のオリエンテーリングシーンにおいてインターネットがどのように使われているか紹介します。

## マイナースポーツであるがゆえ

あらためて言うまでもありませんが、日本ではオリエンテーリングはマイナーなスポーツです。全国を対象としたオリエンテーリング関係の雑誌は、このオリエンテーリングマガジンだけです。数年前までO-Japan という雑誌がありましたが、現在休刊しております。

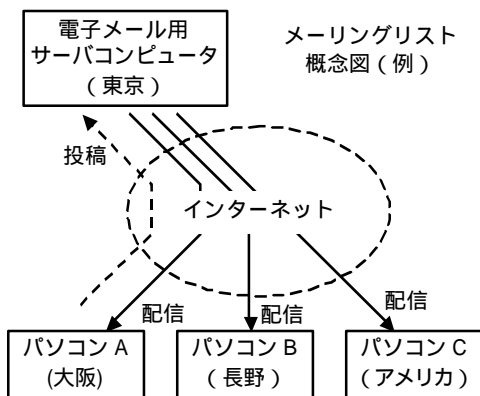
こんな状況の中、お互いの情報をやりとりするために、オリエンテーリングは他のスポーツと比べて比較的早くから電子メールや電子掲示板を利用して情報が流通してきました。そしてインターネットの普及とともにその動きは加速しています。この動きは今後も続くことでしょう。

## 情報のつぼ「メーリングリスト」

今のビジネスシーンで、電子メールは電話と同じくらい不可欠なものとなっています。いまどきの大学生は入学とともに電子メールのアドレスが発行され、大学で電子メールを扱うことができるようになっていきます。そればかりか、今や就職情報は電子メールのやりとりでないと得られないほどになっており、電子メールの社会への浸透ぶりは一般に予想されている以上になっています。

こうした電子メールを利用してオリエンテーリング関連情報を個人的にやりとりしてできるのですが、これを一歩進めたものが、メーリングリストと呼ばれるものです。

これは電子メールを使ってメールを同報配信するものです。いわば電子メール連絡網とも言うものです。概念的には以下の図のようになります。



インターネット上の仕掛けはメールサーバと呼ばれるコンピュータが1台あれば可能です。このコンピュータはインターネット上のどこに接続されていてもOKです。

このコンピュータ宛てに電子メールを送ると、このコンピュータがせっせと内容をコピーして、登録者全員に同じ内容の電子メールを送ります。これがメーリングリストです。

送られてきた電子メールの内容に回答するときは、再びメールサーバのコンピュータ宛てに電子メールを送れば、その返事も全員に配信されることになります。

こうして、さまざまな議論や情報を登録者全員で共有できるのがメーリングリストの特徴で、メーリングリストを使ってのメールのやりとりは、まるで会議をしているような感覚になることがあります。

## 現在日本で稼働しているメーリングリスト

では実際に日本ではどのようなメーリングリストが動いていて、実際にオリエンテーリングの情報が飛び交っているのでしょうか？ これは実は誰も正確に把握できていません。おそらくメーリングリストの種類は2000年現在でゆうに100を越えていると考えられます。これは一般オリエンティアを対象として、大会などの一般情報が流通しているメーリングリストから、特定のクラブや同期会などのメーリングリストまで、その種類はさまざまです。さらにイベント主催者にとってメーリングリストは強力な情報交換や討議の場として活用されています。

## なぜメーリングリストなのか？

ふつう「インターネット」というと「ホームページ」を想像する人が多いと思います。もちろん「ホームページ」も有効な情報交換の手段なのですが、メーリングリストは「ホームページ」を上回る機能があると筆者の木村は思っています。

1. 情報が電子メールで送られてくるので、わざわざ自分から何か行動を起こしているんなところにアクセスして情報をもらいにゆく必要がない。
2. 情報の取得が短い時間で済むため、電話からインターネットに接続している人のコストが少ない。
3. 会社のメールが使える人はこれをタダで利用できる。公私混同だが、こういった利用が多いのも事実。しかし、メールの量が多くなるとこれも難しい。
4. 必ずしもインターネット環境じゃなくても、メール環境があれば参加できる。たとえばパソコン通信やiモードなどの携帯電話でも利用可能。

ちなみに「メーリングリスト」の事を英語では単に reflector と呼ぶようです。

次回は「ホームページ」について書こうと思います。